



●御講書始

一月七日は、例の如く宮中にて、御講書始めを行はせられ、天皇陛下には鳳凰の間に出御あらせられて左の進講を聞召されたりとぞ。

英國々會改革の顛末 文事秘書官長 細川潤次郎  
日本紀卷の三 東宮侍講 本居豊穎  
書經大禹の篇 全 三 島 毅  
同日 皇太子殿下には、葉山御用邸に於かせられて御式を行はせられ本居侍講は、萬葉集の一節三島侍講は周易、三田侍講は、ピーター帝の御逸事を進講したてまつり、をはりて後、一同に御祝酒をたまはりたりといふ。

●歌御會始

明治三十五年の歌御會始は先月十八日を以て行はせられぬ、午前十時二十分 兩陛下鳳凰の間に出御、御式の次第恒の如くにして徳川慶喜公の讀師をつかふまつれる例にましてめでたく、拜觀を許されたるは十二名是も常より多かりきと泄れ承はりぬ。

◎學事集會

●女子高等師範學校 ▲送別會。教諭岡田光氏愈 本月中出發洋行の途の上らるべきに付き、昨日廿五日後一時同校内に於て、職員一同送別の宴を開たりといふ ▲旅行。本科四年生は二部に分れ一部は先月廿七、八の兩日、一部は卅一日及二月一日の兩日静岡地方へ學術研究のため旅行。専攻科生徒は三十日横須賀へ旅行せりとの事なり ▲

入學 本科入學試験は、兼ねて記せしか如く愈先月十七日を以て各地とも結了せしが尙▲來學年は地歴専修科家事専修科等も募集するやも知れずとの事なり▲附屬幼稚園 よりは來四月小學校に移るべき幼児凡そ五十名餘りあり、補缺として來四月入園せしむべき幼児は近々募集すべしといふ。

●帝國教育會女子講習會 同會は愈去る二日より開會午後毎月曜日午前九時より開會すべしとのこと尙全會學科及講師は左の如し

教 育 女子高等師範學校教授 篠田利英  
國 語 同 岡田正美  
數 學 同 森岩太郎

●東京府教育會女子學術講習會 同會も愈本月より、前同様の時間を以て開會せりと云ふ。講師及學科は左の如し

理 科 女子高等師範學校教授 岩川友太郎

家 事 華族女學校學監 下田、歌子

●鑛毒地救濟婦人會 三輪田眞佐子、矢島揖子

潮田千勢子、島田信子等の諸氏發起にて設立されたる鑛毒地救濟婦人會の規則是左の如しといふ。

第一條 本會は鑛毒地救濟婦人會と稱す

第二條 本會は渡良瀬川沿岸鑛毒地の窮乏を救助するを以て目的とす

第三條 本會の事業は左の收入を以て經營する者とす  
一、有志者の義捐金品  
一、其他臨時收入

第四條 本會に左の役員を置く  
委員、會計、協議員、

第五條 本會の假事務所を京橋區西紺屋町銀座會館内に置く

●東京感化院 澁谷の同院に於ける昨年中の成績を聞くに、入院廿六名、内救養生十六名、自費生十五名、出院廿三名、内改良認定のもの十五名見込なきもの、及び年齡改正の結果に依るもの八名なりとのことなるが、改良生十五名の内海軍に

入りし者一名、巡查奉職一名、中學に入りし者三名、農業に従事せる者二名、商業に従事せる者三名、工業に従事せる者一名、方向未定の者四名なりと云ふ、猶同院は昨年農業部を新設せしが、今年は更に工業部を新設する筈にして、今年收容すべき救養生は五十名の筈なりといふ。

●ローマ字實行會 牛込區矢來町三番地六十一號 渡邊董之介氏方に設置せる同會は其實行を急にせんが爲め過般趣意書を公にせる由。次號には紹介する事とすべし

●東京府教育會附屬保姆傳習所 第二回同會は愈六ヶ月の學習期を卒えて、本月卒業式を舉行すべし。斯道の新卒業者の續を出でらるゝは、まことに喜ばしきも、今や完全なる幼稚園保育者の需用頓に増加せる際、吾人は奮つて、今少し長期

の學習をなさしむる設計のあらん事を切望するものなり。

●博愛文學會 神戸市に於て、村上五郎氏外四名の設立にかゝるもの、左に掲ぐる會則に見て、本會の、從來世にありふれたるものと、大に其撰を異にするを知るべし。

博愛文學會總則 (十月改正)

細則ハ別ニアリ

- 第一條 本會ヲ稱シテ博愛文學會トス
- 第二條 本會ハ一般ニ少年者ノ親睦友誼ヲ固メ互ニ智識ヲ交換シ專ラ文學研究ノ爲メ設クルモノニシテ亦体育ヲモ獎勵ス
- 第三條 本會事務所ヲ神戸市生田町三丁目十三番邸内ニ設ク
- 第四條 本會ニ會長一名幹事二名書記一名ヲ置ク
- 第五條 本會々員ヲ名譽會員、贊助會員、正會員ニ分ツ
- 名譽會員ハ本會ニ功勞アル者ニシテ本會ヨリ之ヲ指命ス
- 贊助會員ハ本會ノ設立ヲ賛成協力スルモノトス
- 第六條 年齢七歳以上ノ者ハ男女ノ別ナク正會員タルヲ得ベシ
- 第七條 本會ハ博愛慈善ヲ旨トシ設立セルガ故ニ會員ヨリ入會金及會費等ヲ徵集セズ凡テ本會ノ費用ハ會長ノ之ヲ負擔スルモノトス

第八條 本會々員ハ名譽、贊助、正會員ノ別ナク凡テ本會設立ノ

趣旨ニ基キ博愛慈善ヲ旨トスベシ

第九條 本會ハ新刊有益雜誌ヲ購求シ村上文庫ナル名義ヲ以テ毎

月二回以上正會員ヲシテ交々閱覽セシムベシ又會員中ヨリ書籍

雜誌ノ寄附ハ隨意タルベシ

第十條 本會ハ月ヲ撰ヒ博愛文學會雜誌ナル者ヲ發行シ會員二分

第十一條 本會ハ事務所内ニ有益ナル書籍及雜誌ノ備付アルヲ以

テ會員ハ許可ナ得テ借用スルヲ得ベシ

第十二條 本會ハ入會セントスル者ハ紹介者ヲ求メ左ノ書式ニヨ

リ申込ムベシ 但シ場合ニヨレバ紹介者ナクトモ差支ヘナシ

第十三條 本會々員ニシテ制規ヲ犯シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚濁スル

モノアレバ會長ハ之ヲ除名スルヲアルベシ

本會ハ宗教上設立セシモノニアラズ

(用紙半紙ノ一) 入會申込書

宿所.....

姓名.....

年齢.....

右者今般實會へ入會致候條入會ノ上ハ制規ヲ遵守シ誠實ニ文學研究可致依テ此段申込候也

明治何年何月何日 右 何 之 某節

紹介人 何 之 某節

博愛文學會御中

● 筆の筆

● 少年禁酒法案

政友會文部部會は、今議會に於て十八年未滿の幼者に對する禁酒法案を提出す

る事に決せりと聞く。學生風紀問題の八釜しき今日此頃、教育上、衛生上最適切の議なるべし。願

くは成立の後、一文の死法たらしむることなからんとを望む。

● 鳩山博士夫妻の歸朝 かねて歐米漫遊中なる鳩山博士夫婦は先月十一日午前十時四十八分新橋

着列車にて無事歸朝せられたり。

● 小學校長委任待遇法 曩に開會せる高等教育會議に於て議員加藤弘之氏外數名より建議せる一

ヶ月月俸五十圓以上を受くる公私立小學校長にし

て就職後成績佳良なる者は特に委任待遇に進級の

道を開かんことを希望するの件は同會議に於ては

滿場異議なく可決し、主務大臣に建議せりと。

●自轉車速力の制限 獨逸公衆衛生會四季年報

三十三卷三冊に於て、ドクトルブリヨリス氏が報告する所を見るに、自轉車乗は十五歳以上に達して始めて許すべきものにして、其速力は一キロメートル(九町十間)を走るに、男子は四分時、女子は五分時以下ならざるべからず、若し是より速力大なる時は大に健康を害すべしと云ふ。(衛生談話)

●ナイチンゲール嬢の大患 赤十字事業の發頭者として慈善界無冠の女王たるナイチンゲール嬢は頃日病氣頗る危篤なりとの報あり。嬢は今年實に八十二歳の高齢なり。

新刊紹介

▲和洋獨占 全一冊 佐藤樂天氏編輯

損益、旅行等其他の出來事を面白き方法にて占ひ出すなり。占の出る所には和漢洋に於ける有益なる俚諺格言を引けり。春夜のつ

れくなど、徒然を慰するに一寸面白からん。定價十五錢。發賣所本郷區弓町二ノ五(日東館)

▲いろはかるた

從來のには、一寸面白からぬもありしが、これらに改められたり

美語の箱入りなり。(發賣所 金港堂)

▲教育童話

第四編は多稼散人の筆にて加藤清正に虎の咄を附録せし、第五篇は福田季月氏の筆にて體內めぐりに飛大佛を附録せしたり。何れも少年讀本として面白し。(定價各八錢 發賣所 金昌堂)

▲國旗

本書は教授の資料に充てんがため、國旗の性質由來軍旗の尊嚴等苟くも國旗に關せる一切の事を記述せるものなり。一讀再讀の價値は十分あるべし。(定價三十錢 發賣所 育成會)

▲教員必携實用手帖

明治卅五年用の手帖にして、教員に向つて必要なる一切の欄を設けたり。至極便利のものなり。(定價十八錢 上製廿五錢 發賣所 金港堂)

▲實驗教授指針

毎月一回 發行所 金昌堂

本年に至りて始めて生れたる教育雜誌、材料豊富にして多方殊に實地的教育者の好同伴なるべし(定價一冊十五錢)

新刊雜誌

▲東京教育雜誌

第一四五、六號 同 發行所

●印を附したるは婦人雜誌なり

▲教育時論	第六〇二三號	開	發	社
▲考古界	第一篇第七號	考	古	學
▲京坂神保育會雜誌	第七號	同		會
▲日本之小學教師	第三七號	國	民	教
▲うらにしき	第一一號	尚	綱	社
▲六合雜誌	第二二三號	日	本	に
▲上野教育會雜誌	第一七一號	同	會	務
▲遊戲雜誌	第三號	日	本	遊
▲下野教育	第一七九號	同	會	務
▲私立石川縣教育會雜誌	第一九號	同		會
▲才媛詞藻	第五	東	洋	社
▲山梨教育	第八五號	同		社
▲教育實驗界	第九卷第一號	育	成	會
▲越佐教育雜誌	第一〇八號	同		會
▲衛生談話	第一二號	通	俗	茶
▲健康乃采	第八號	同	會	務
▲秋田縣教育雜誌	第一一三號	同		所
▲福島教育	第八〇號	同		社
▲婦女新聞	每號	同		社
▲女鑑	第二四三、五號	國	光	社
▲牟婁新報	每號	同		社
▲日本婦人新聞	每號	同		社
▲大八洲雜誌	卷一八六	大	八	洲

▲東京教育時報	第一六號	東	京	市	教	育	會
▲みんな	第二卷第一號	大	日	本	女	學	會
▲女子の友	第二〇七號	東	洋				
▲日本婦人	第二六號	帝	國	婦	人	協	會
▲令德	第三卷第一號	令	德	會	本	部	
▲哲學雜誌	第一七八號	哲	學	會			
▲英學新報	第一卷第四號	英	學	新	報	社	
▲婦人衛生雜誌	第一四六號	私	立	大	日	本	婦



會報

●●●●●  
 本會例會。本月二日(土曜日)午後三十分より、女子高等師範學校附屬幼稚園に於て、開會、ドクトル尺秀三郎氏の演説ありたり。詳細は次號に報すべし。  
 ●●●●●  
 前幹事稻石泰子氏 久しく本會幹事として、熱心盡力せられし同氏は客臘在大坂淺井友太郎氏と結婚せられたり。茲に本會は祝意を表し併せて、多年の勞を謝す。

入會

東京ノ部

女子高等師範學校寄宿舎

- 全 小々高 みさを  
 全 廣瀬 他美  
 全 奥山 はる  
 全 寺本 みさし  
 全 池袋 すか  
 全 下瀬 龍乃  
 全 槻尾 かをる  
 全 大津 まん  
 全 窪田 八重  
 全 寺島 さく  
 全 保井 この  
 全 小林 ふと

- 全 麹町區平河町六ノ二ニツツリジングトン方  
 全 女子高等師範學校  
 全 神田區絲町一ノ一川瀬方  
 全 日本橋區坂本小學校  
 地方ノ部  
 山口縣吉敷郡山口町大字圓政寺町  
 越中國下新川郡泊町  
 臺灣宜蘭門外官舎  
 東京府下荏原郡大崎村字下大崎三〇六  
 鳥取縣鳥取市掛出町

- 高木 なみ  
 安東 てい  
 根來 まさよ  
 渡邊 すみ  
 藤岡 さき  
 相川 みね  
 山田 せん  
 村井 あい  
 木村 寅惠  
 岩田 ゆき  
 富田 しげ  
 宮崎 もと  
 内田 たね  
 廣瀬 銀  
 岡山 秀吉  
 片桐 くら  
 大野 朝夷  
 戸村 やす  
 松田 よし  
 小野田 みほ  
 服部 繁子  
 柴田 かづ

和歌山縣和歌山市始成幼稚園  
 東京府下北豊島郡南千住通ノ新町四六  
 神奈川縣三浦郡横須賀小學校  
 鳥取縣鳥取高等女學校

全

鳥取市殿片原町五九

鳥取市四町二三九

鳥取市二階町一ノ四五

臺灣宜蘭廳官舎

改姓

宮武事

轉居

北海道釧路米町一三三

北海道石狩國上川町旭町宮下通十五丁目左十號

北豊島郡王子元瀧の川村一三一

臺灣鹽水港廳官舎

自三十四年十二月十七日  
 自三十五年一月廿二日

會費領收

一金六拾 三錢 自三十五年一月  
 自全 三錢 自三十五年六月  
 自三十五年一月  
 自全 三錢 自三十五年六月  
 自三十五年五月  
 自三十六年十二月  
 一金二 圓

川口 雲枝  
 淺野 てる  
 小島 はま  
 小澤 さき  
 山田 かめ  
 伊庭 なほ  
 岡澤 やへ  
 外山 茂  
 村川 愛  
 櫻川 市子  
 福宮 りき  
 福宮 りき  
 福宮 りき  
 儀 俄 ふみ  
 印 東 音 鳴  
 村上 光  
 松田 よし  
 小野 みほ  
 野原 つれ

一金壹圓二拾錢 自三十五年十二月  
 一金壹圓 自三十四年七月  
 一金五拾錢 自三十五年八月  
 一金六拾錢 自三十五年六月  
 一金三拾錢 自三十五年三月  
 一金七拾五錢 自三十四年七月  
 一金壹圓 自三十五年十一月  
 一金壹圓 自三十五年十一月  
 一金六拾錢 自三十五年六月  
 一金五拾錢 自三十五年五月  
 一金六拾錢 自三十五年六月  
 一金五拾錢 自三十四年九月  
 一金四拾錢 自三十四年十二月  
 一金四拾錢 自三十四年十二月  
 一金二拾錢 自三十四年十二月  
 一金二拾錢 自三十五年一月  
 一金二拾錢 自三十四年十二月  
 一金拾錢 自三十四年十二月  
 一金拾錢 自三十四年十二月

小出 雷吉  
 森 岩太郎  
 岡田 起作  
 淺井 はつ  
 蘭田 うめ  
 新免 義男  
 關 すか  
 大島 小春  
 柳川 まつ  
 服部 しげ  
 片桐 くら  
 矢野 ふさよ  
 奥山 はる  
 渡邊 すみ  
 保井 この  
 寺島 さく  
 寺本 みさし  
 小々高 みさな  
 廣瀬 たみ



